



第2回医療安全いわて公開フォーラム 報告

活発な意見交換で医療安全体制を強化

岩手県医師会会長 石川育成

平成22年11月27日(土)午後2時から、「第2回医療安全いわて公開フォーラム」が岩手教育会館で開催された。このフォーラムは医療安全全国共同行動の一環として昨年からの岩手県医師会、岩手県歯科医師会、岩手県看護協会、岩手県薬剤師会、岩手県病院薬剤師会、岩手県臨床工学技士会の六団体の主催で行われている。六団体を代表して実行委員会委員長の石川育成が「この事業は、医療事故防止のために『多くの医療関係者が連携して取り組む』というところが特徴であり、意義があると認識している。医療安全体制の確立は、だれか一人の努力でなされるものではなく、関係者全員が連携して行っていくべきものである」と挨拶した。六団体の会長が紹介された後、日本医師会常任理事高杉敬久先生からの祝電が披露された。

基調講演は、岩手県医師会岩動孝副会長が「岩手県における医療安全体制」と題して約1時間の講演を行った。そのなかで、ヒューマンエラーを起こす要因を出来るだけ少なくするとともに、ヒューマンエラーを吸収する防御壁を構築することが必要であること、万が一が起きてしまった場合の対応について語り、「医療安全体制の構築には医療従事者のみならず一般県民にも十分に認識して関わっていただきたい」と強調した。

その後、「医療安全の取り組み」をテーマに岩手県医師会小原紀彰副会長がコーディネーターとなってシンポジウムが行われ、以下のとおり5団体からそれぞれの立場で講演が行われた。それぞれの要旨を簡単に紹介する。

「医療安全体制の問題と課題」—医師の立場から—(岩手県医師会常任理事 和田利彦)

高齢者の医療安全体制について、いのちを守るパートナーズの充実が必要と痛感している。盛岡市医師会

では、会員へのアンケートによる協力医の実態調査をした。また、盛岡市および周辺の施設を全数を把握し、入所者が「わたしのカルテ(仮称)」のようなファイルを携帯できるようにして、いつでも適切な医療を受けられるような体制を目指している。

「医療安全への取り組み」—歯科医師の立場から—(岩手県歯科医師会理事 児玉厚三)

現在の歯科医療は、より広範囲な知識と技術の習得が必要であると同時に、患者さんの全身疾患の把握を含めた安全管理に関する知識・技能を身に



つけないといけない。一般の歯科医院を含めた歯科界全体としての医療安全管理体制の整備について取り組み意識の変化を、アンケート調査を基に一部ご紹介した。

「医療安全KYT」—看護師の立場から—(独立行政法人国立病院機構 盛岡病院医療安全管理係長 東君江)

当院では平成22年より、KYT(危険予知訓練)を導入した。KYTについて既存シートによる学習会を行い、各職場のリスクマネージャー(医療安全推進担当者)が中心となり、写真シートの作成及び実践をすすめた。医療事故を減少させ、医療現場の安全文化を醸成し、患者さんへの安心な医療の提供、職員の環境を作りするために今後も活動をしたいと考えている。

「安心してくすりを服用できる環境づくり」—薬剤師の立場から—(岩手県薬剤師会常任理事 本田昭二)

薬剤師会では、県民が薬を安心して服用できる環境づくりに取り組んでいる。第一に、「お薬手帳」の普及、第二に薬の正しい使い方の普及啓発を目的とした「みんなの薬の学校」事業である。各市町村の保健センターと連携し、老人クラブ等を中心に講演しているが、講演現場で得られる情報は県民の薬に対する理解や意識を反映するものであるため、普及という目的とともに我々の薬剤師業務に大切な服薬指導のポイントも得ることができると考える。

「輸液ポンプ・シリンジポンプの安全管理」—臨床工学技士の立場から—(岩手県臨床工学技士会副会長 塩原伸明)

近年ME機器の使用は確実に増加しているが、ひとたび誤操作で過量投与が発生すれば、生命の危険に直結する可能性が高い。「医療安全全国共同行動から推奨する対策」では機器サイドへの対策として「機種の一化や日常・定期点検の実施」、人間サイドへは「一定の教育や標準手順・チェックリストの作成」などを推奨している。それぞれのポンプでの事故発生パターンと解決策、県立病院全体での取り組みや当院における活動について述べた。

最後に、各シンポジスト、基調講演講師岩動先生がコメンテーターとなり活発な意見交換が行われた。当日は医師、医療従事者、一般県民、報道関係者他約300名以上の参加があり、盛会裡に終了した。